

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	准教授	氏名	榎 直美
----	-------------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

研究分野は「高齢者とその家族の心身の健康支援」をテーマとし、特に近年は家族介護者の健康支援において、多職種が協働した効果的な介入方法について研究中です。確かに介護保険制度が施行され家族の身体的介護負担は軽減された側面もありますが、孤立した家族介護者の寂しさや閉塞感は以前と変わっていないように感じます。本当に必要な普遍的支援を見出すためには、自ら介護家族者と触れ合いその苦悩を感じ取る感性が必要だと考えます。そのために介護アドバイザーや介護関係の研修会講師など地域での実践活動を積極的に行い、その活動を通して、介護保険制度にはないインフォーマルな関係性を構築していきたいと思えます。そして目指すは、エビデンスに基づいた家族介護者のエンパワメント向上への看護支援です。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

榎直美「科目7第3章－自立に向けた介護過程の実践的展開－」p234-248、『MINERVA 福祉資格テキスト：介護福祉士介護編』小櫃芳江、鈴木知佐子監修、ミネルヴァ書房、2012.

<論文>

- ・ 榎直美・丸山康子・尾形由起子「認知症高齢者の転倒リスクアセスメントに関する検討－グループホームでの認知症高齢者のBPSDとそのかわりに着目して－」第41回日本看護学会論文集, p123-126, 2011年.
- ・ 榎直美・吉田恭子・江上史子・福田和美・安酸史子「地域住民の主体的健康活動の質を高める支援に関する検討－参加・共同型看護ゼミでの体験を通して得られた効果の検証－」福岡県立大学看護学紀要, 8(2), p75-82, 2011年.
- ・ 丸山康子・榎直美「デイケアにおける看護者の役割と専門性に関する研究－家族介護者のニーズ調査に基づく分析より－」第41回日本看護学会論文集, p199-122, 2011年.
- ・ 榎直美・安酸史子・小野美穂・清水夏子「地域住民参加・共同型看護ゼミによる保健行動変容への動機付けに関する検討」第40回日本看護学会論文集, p92-94, 2010年.
- ・ 榎直美「デイケア利用者の家族介護者における介護不安に関連する要因」、福岡県立大学看護学紀要, 7(1), p10-17, 2009年.
- ・ 福田和美、渡邊智子、瓜生忍、赤木京子、榎直美「介護老人保健施設における救急ケアの実態」平成19年度看護研究助成事業. 財団法人木村看護教育振興財団. 看護研究集録, 16, p129-144, 2009年.

<報告書>

- ・ 榎直美、尾形由起子、「家族介護者への協同的介入支援ネットワークモデル構築に関する研究」成22年度研究奨励交付金成果報告書、2011年.
- ・ 榎直美、渡邊智子、尾形由起子「家族介護者を支援するための効果的介入方法に関する研究」平成21年度研究奨励交付金成果報告書、2011年.
- ・ 榎直美、安酸史子、小野美穂、清水夏子「主体的健康づくりを促すための看護介入法に関する研究」福岡県立大学附属研究所2008年度事業報告書、2009年.
- ・ 榎直美、安酸史子、小野美穂、清水夏子「生活習慣病予防のための個別支援プログラムの効果に関する研究」平成20年度研究奨励交付金成果報告書、2009年.

②その他最近の業績

<解説>

- ・ 榎直美「老年看護学」担当：『看護師国家試験過去問題2012年』編者：安酸史子、北川明 監修、佐藤香代メディカ出版、2011年.
- ・ 看護師国家試験学習支援ツールの解説「老年看護学」放送大学ICT活用遠隔教育センター、2011

<学会報告>

- ・ 榎直美、尾形由起子、田淵康子、横尾美千代「介護肯定感形成における家族介護者の対処行動の特徴」第16回日本在宅ケア学会、東京、2012年3月。
 - ・ 榎直美、丸山泰子「家族介護者の介護適応プロセスに関連する要因」第16回日本看護研究学会九州・沖縄地方会、大分、2011年11月。
 - ・ 丸山泰子、榎直美「介護老人保健施設の看護者が抱く不安」第16回日本看護研究学会九州・沖縄地方会、大分、2011年11月。
 - ・ 榎直美、丸山康子「グループホームにおける認知症高齢者の転倒リスクの検討 - 認知症高齢者のBPSDとそこにかかわりに着目して -」第41回日本看護学会学術集会・地域看護、滋賀、2010年10月。
 - ・ 丸山泰子、榎直美「デイケアにおける看護者の役割と専門性に関する研究 - 家族介護者のニーズ調査に基づく分析より -」第41回日本看護学会学術集会・地域看護、滋賀、2010年10月。
 - ・ 榎直美、安酸史子、小野美穂、清水夏子「地域住民参加・共同型看護ゼミによる保健行動変容への動機付けに関する検討」第40回日本看護学会学術集会・地域看護、長野、2009年11月。
 - ・ 榎直美、「家族介護者への心身の健康支援に関する研究—デイケアを利用する家族介護者への効果的介入方法の検討—」第18回日本健康教育学会学術集会、東京、2009年6月。
 - ・ 石川フカエ、榎直美「中山間地域における高齢者の健康支援に関する研究」18回日本健康教育学会学術集会、東京、2009年6月。
 - ・ 榎直美、丸山泰子「デイケア利用の高齢者とその家族への在宅支援に関する研究（第2報）—家族介護者のQOLを高める介入方法の検討—」第13回日本在宅ケア学会、大阪、2009年3月。
 - ・ 丸山泰子、榎直美「デイケア利用の高齢者とその家族への在宅支援に関する研究（第1報）—高齢者とその家族が抱える不安要因の分析—」第13回日本在宅ケア学、大阪、2009年3月。
- 3. 外部研究資金**
- ・ 文部科学省科学研究費補助金、基盤C（平成23～25年）「通所サービスにおける家族介護者の介護適応を促す協同的ケアモデルに関する研究」研究代表者（2,340千円）
 - ・ 文部科学省科学研究費補助、基盤B（平成21～24年）「経験型実習教育の研修プログラムの有効性に関する研究」研究分担者（研究代表者：安酸史子）
- 5. 所属学会**
- 日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本在宅ケア学会、日本健康教育学会、日本老年看護学会、日本看護学教育学会、日本ケアマネジメント学会
- 6. 担当授業科目**
- 老年看護論・2単位・2年・通年、老年看護実践論・1単位・3年・通年、老年看護実習ⅠⅡ・3単位・3年・通年、看護専門ゼミ・2単位・4年・前期、統合実習・2単位・4年・前期、卒業研究・2単位・4年・後期、老年看護学特論・2単位・修士1年、老年看護学演習・2単位・修士1年
- 7. 社会貢献活動**
- ・ NPO法人「ヘルスアイランドライツサポートうりずん」第三者評価委員
 - ・ 「老いを支える北九州家族の会」介護アドバイザー
 - ・ NPO法人「福祉・医療機関教育評価機構」理事・第三者評価委員
 - ・ NPO法人「生涯現役支援センター」高齢者健康相談員
 - ・ 筑豊市民大学「ヘルシーエイジングゼミ」参画し年間を通して地域住民との協同的実践活動。
- 8. 学外講義・講演**
- ・ 筑豊市民大学・ヘルシーエイジングゼミ講師「食事と健康法」、「救命救急の方法と実践について」福岡県立大学、2011年5月、8月。
 - ・ 教員免許更新講習講師「安全・安楽な食事の援助」福岡県立大学、2011年8月
 - ・ NPO法人生涯現役支援センター講師「健やかに老いるとは」行橋、2011年8月。「ストレスマネジメントと上手な付き合い方」行橋、2011年6月。
- 9. 附属研究所の活動等**
- ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員